

《検査案内補足》

患者の準備

～細菌検査ご依頼時～

1. 発病（発熱等）初期、化学療法開始以前に採取する。
2. 抗菌薬投与中の患者からの採取
24時間以上中止して採取する。中止できない場合は、抗菌薬の血中濃度が最も低いレベルにある時期（次回投与の直前）に行う。

＜臨床微生物検査ハンドブック 第4版 三輪書店＞

～生化学検査・血液検査ご依頼時～

生活環境要因

1. **食事**：食事の影響を受けて増加する代表的な検査項目は血糖、TG、インスリンである。血糖値は食後約30分、TG値は2～3時間でピークに達する。インスリンは血糖値の上昇と並行して分泌が増加する。一方、遊離脂肪酸値、IP値は食後低下する代表的な検査項目である。
2. **飲酒**：習慣的な飲酒は γ -GT、TG、ALTを上昇させる。
3. **喫煙**：HGB、RBC、WBC、CEAを上昇させることがある。
4. **運動**：過激な運動によってCKは上昇する。軽度であるが、AST、LDにおいても同様の傾向が認められる場合がある。
5. **薬剤**：睡眠薬、向精神薬、解熱鎮痛薬などの服用により γ -GTが上昇することがある。
6. **妊娠**：ALP、TC、TGなどは上昇し、Alb、Na、Kは低下する傾向が認められる。

表：検査結果の変動因子

遺伝的要因	①性差	男>女：尿酸、クレアチニン、CK、HGB、Fe 女>男：HDL-C、クレアチニン、LH、FSH
	②人種差	欧米人>日本人：TC、尿酸
	③血液型	ALP アイソザイム
時間的要因	①加齢	新生児期：AST、ALT、LD、CK↑、AMY、TG、TC↓↓ 幼小児期：ALP、IP↑
	②日内変動	早朝高値：Fe、ACTH、コルチゾール 夜間高値：プロラクチン、成長ホルモン、TSH、ADH
生活環境要因	①食事	食後↑：グルコース、TG、インスリン 食後↓：遊離脂肪酸、IP
	②飲酒	γ -GT、TG、ALT、HDL-C、MCV↑
	③喫煙	HGB、RBC、WBC、CEA↑
	④運動	CK、LD、AST、乳酸↑、IP↓
	⑤薬剤	γ -GT、ALP↑
	⑥妊娠	尿酸、ALP、TC、LD、LAP、TG、AFP、CA125↑ 総蛋白、Alb、ChE、Fe、Ca、HGB↓
その他	①採血の体位	総蛋白、Alb、HGB、TC、Ca↑
	②長時間の駆血	K、Ca↑
	③月経周期	LH、FSH、プロラクチン、CA125などが変動

＜臨床検査法提要 改訂第34版＞